

遠隔医療実証事業の実施結果について

このことについては、「遠隔医療実証に関する協定（令和7年7月1日締結）」に基づき、下記の三者による「出雲市遠隔医療実証コンソーシアム」を組織し、ICT技術を活用した移動診療車による遠隔医療の社会実装に向け、実証に取り組んでいます。本年度の実施結果と次年度の予定について次のとおり報告します。

記

1 事業実施主体

出雲市遠隔医療実証コンソーシアム 会長 山下 一也

【構成団体】 公立大学法人島根県立大学（理事長 山下 一也）

株式会社イーグリッド（代表取締役 小村 淳浩）

出雲市（出雲市立総合医療センターを含む。）（市長 飯塚 俊之）

2 実証事業の主な進捗

- | | |
|------------|--|
| 令和7年7月～11月 | <ul style="list-style-type: none"> ・対象地域の調査（北浜、佐香地区を中心に実施） ・住民説明・啓発のための市民公開講座を北浜コミュニティセンターにて全3回実施
(8/21、9/18、11/6) ・先行事例視察 山口市徳地診療所（9/24） ・使用車両の準備 |
| 令和7年11月28日 | ・模擬患者によるロールプレイでの実証開始 |
| 令和8年1月19日 | ・出発式（1/19） |
| ～2月18日 | ・実際の患者への保険診療 |
| 令和8年3月 | ・令和7年度事業評価及び令和8年度事業企画 |

3 移動診療車「つむぐ」について

中山間地域の狭あいな道路に対応可能で、運転も容易なホンダ「N-BOX」（軽自動車）を使用。また、等身大のディスプレイの遠隔医療用モニターと高精度カメラを搭載し、対面診療に近い環境を整備。



「つむぐ」の名称とロゴデザインの由来

市民と共に安心して暮らせる未来を「紡いでいく」という思いをこめて、「つむぐ」と命名。ロゴは産官学連携、医療Ma a S、医療関係者、地域住民といった、様々な関りや思いから一つのものが紡がれていくイメージで作成。

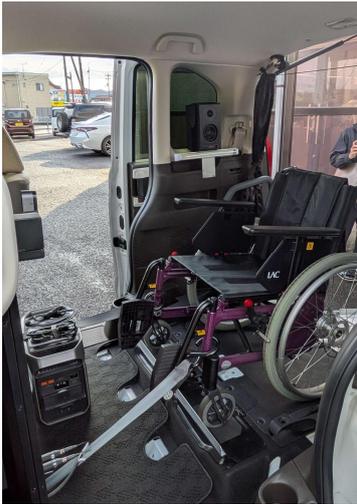


写真1：車内



写真2：遠隔医療用モニター



写真3：スロープ

4 実際の患者への保険診療の実施結果

本年度の実証では、以下のとおり実際の患者への保険診療を行い、中山間地域での診療における車両操作、通信環境及び搭載設備等の機能性や、オンライン診療の実施フロー等の効率性といった基本的な運用について評価検証を実施した。

(1)対象者

生活習慣病等で出雲市立総合医療センターに継続通院中の患者5名

(2)対象地域 平田地域沿岸部（北浜・佐香地区）

(3)診療実施日

1/19(月)午後 3名、1/21(水)午後 2名

2/16(月)午後 3名、2/18(水)午後 2名（1/19、1/21と同じ患者）

(4)診療実施体制

- ・ 保険診療は、出雲市立総合医療センターの医師、看護師で行った。
- ・ 看護師が移動診療車で患者の居住地（自宅付近）に行き、病院で待機している医師が、車両内の患者に対し、モニターを通じてオンライン診療を実施した。

(5)評価検証結果

- ・ 現行の機材で準備から診察までの流れについて、全体的にスムーズな運用ができた。
- ・ 今後、処方対応や、集会所等の活用も含む効率的な運用の検討が必要。

5 令和8年度事業について

今後、本年度事業の評価検証結果を踏まえ、次の点の検討を行い、実用的で効率的な運用となるよう、本コンソーシアムは、緊密な産学官連携のもと、多くの関係者のご理解とご協力を得ながら、引き続き実証に取り組んでいく。

①処方及び服薬指導の方法

②地域の集会所等の活用も視野に入れた集合形式での診療方法

③患者の居住分布や環境を踏まえた持続可能な巡回ルート